

例会報告 Rotary



財団補助金事業
「相撲に触れ合う一日」

世界に希望を生み出そう

- | | | | |
|------|--------------------------|--------|-------|
| ●例会日 | 毎週金曜日 12:30~13:30 | ●会長 | 下屋勝比古 |
| ●例会場 | 高山市花里町3-33-3 TEL 34-3988 | ●幹事 | 塚本 直人 |
| | 大垣共立銀行高山支店 4F | ●会報委員長 | 挾土 貞吉 |

7月30日(日)は財団補助金事業「相撲に触れ合う一日」として、9:00より、高山市相撲場にて『第56回高山市青少年相撲大会』、13:30より飛騨高山世界生活文化センター芸術堂にて『二所ノ関親方講演会』が開催されました。講演会に先立ち12:00より開催の例会には親方にもご参加いただきました。



相撲大会は5月の予選を通過した子の参加する園児の部、近い学年毎に対戦する児童の部、そして当日飛び入り参加の園児同士で戦う「チャンピオン大会」を開催。園児・児童70人が参加しました。



<会長の時間>

実行委員長の杉山さん始め会員皆様に多大なるご協力をいただき、財団補助金事業「相撲に触れ合う一日」の集大成である『第72代横綱稀勢の里 二所ノ関親方講演会』、本日より開催の運びとなり、親方には遠路茨城よりお越し頂きました。



この後は長野への移動が控えているという慌ただしいスケジュールではありますが、この貴重な機会を会員皆様とも共有すべく例会にもご参加を賜りました。

今思い起こしてもその後の成長を確信させた中学生時代の萩原、十両そして横綱へと見事に昇り詰め、二所ノ関親方となられた今、ここ高山で講演いただけるご縁に感謝しています。



例会報告



『我が相撲道に一片の悔いなし』と題した講演では、約300人の聴衆を前に、中学の野球部時代の右手首の骨折から、箸、鉛筆、砲丸投げまで左で出来て自分が左利きだと気づき、十両昇進後の左手首骨折時には、負担を抑えるために

模索した事で自身代名詞の「左おっつけ」誕生につながった等、ピンチをチャンスに変え、横綱にまで昇進した相撲人生を語って頂きました。

終始穏やかながら明快な語り口で、最後に事前に来場者の方から募集していた質問にも答えて頂き終演となりました。



人間力を高める

第4回

伊藤 松寿

よく、通夜式やお葬式のあと、導師をおつとめのお坊さんが、マイクを取り、故人、〇〇様は、「享年××才」（あるいは、「行年××才」〈ほぼ数え年〉）で、極楽往生を遂げられました。と、言われる。

果たして、「享年」とは、「行年」とは、一体、何なのか？ある時、浄土宗のお坊さんが、解釈・説法をされた。

「享年」の「享」は、受（享）けるということです。「享ける」ということは、「私」は、他の動物・植物・鉱物等ではなく、「人間」として生まれさせて頂いたことを「享（う）ける」ということである、と。

また、「行年」の「行」は、「修行」ということで、いま、人生修行を終えて、明らかに、極楽のお浄土に行かれたことを意味すると。

いずれにしても、「人間」として、この世（今生）に生まれさせて頂いた、我々は、日々、日夜、絶みなく精進して、「人間力」を高めなければいけないと、感じた。

